



東通原子力発電所のいま ～日常の現場から～

当社は、東通原子力発電所1号機の再稼働を目指し、原子力規制委員会による新規制基準適合性審査に適切に対応するとともに、所員一丸となって安全対策工事や設備の保守管理に取り組んでいます。

運転停止の状態が続く中、現在、発電所では、どのような業務を行っているのか、所員の日常をシリーズでご紹介します。

今回は、放射線管理課の若山雄太（青森市出身）です。

プロフィール

放射線管理課
若山 雄太（わかやま ゆうた）

青森県青森市出身。2020年入社。
東日本大震災で停電を経験し、生まれ育った東北を電力の安定供給で支えたいと思い入社を決意。
趣味は魚釣りとゲーム。中学・高校時代はバドミントン部、大学時代は軽音楽部に所属。現在も時間があるときは、東通村のバドミントンサークルで汗を流す。



現在、どのような業務を担当していますか。

主に原子炉内で使用する水や一般排水の水質管理のほか、建屋内の換気空気など気体状の放射性廃棄物を放出する際の線量測定を担当しています。

今日は、どのような作業を行ったのですか。

放射能を持つ物質を測定するために使用する機器は、定期的に状態を確認することが必要です。今日は、放射能量が異なる10個の試料を使い、現状の測定精度の誤差が標準値の範囲を超えていないかを確認しました。

業務を進めるうえで心がけていること、注意していることなどを教えてください。

発電所から放出される放射性物質による線量については、地域の皆さまが最も関心が高いことのひとつであると自覚しています。そのため、測定によって得られた結果などは、ミスのない正確な記録作成・報告を行うよう細心の注意を払っています。

最後に、再稼働への思いや今後の抱負などについて教えてください。

日々の業務において学ぶことが多いですが、すべて学び取る気持ちで再稼働に向け全力で取り組んでまいります。また、原子力に携わる者として、原子炉主任技術者の資格取得を目指し、自己啓発に取り組んでいきたいと思っております。



測定に使う試料に異常がないか丁寧に確認



測定精度に誤差がないかしっかり確認

東通原子力発電所バーチャル見学会を開催します

当発電所ではこのたび、発電所の安全対策工事の様子などを紹介するVR（バーチャルリアリティ）動画を作成しました。360°カメラで撮影した発電所上空の映像や、建屋内などの映像は迫り満点！

トントウビレッジにおいて、専用のゴーグルを着用し、VR動画をご覧いただくバーチャル見学会を開催いたしますので、ご家族ご友人お誘いあわせのうえ、ふるってご参加ください。

【日時】

8月22日（日）、9月1日（水）、9月11日（土）、
9月17日（金）、9月22日（水）
午前の部…10：30～11：30
午後の部…14：30～15：30

【場所】

トントウビレッジ 多目的シアター

【定員】

各回20名程度（先着順）

【申込方法】

- ・Eメールまたは電話によりお申し込みください。
＜申込専用電話＞
0175-46-3637（平日9時～17時）
- ・お申込みの際は、氏名、電話番号、人数、希望日時をお伝えください。

【申込期限】

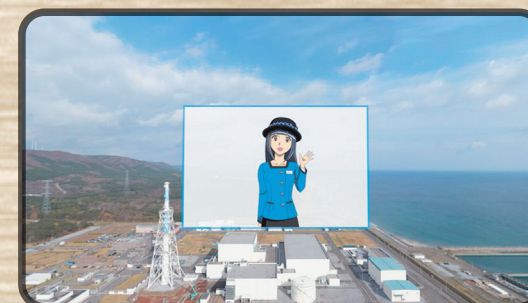
各見学日の3日前

【注意点】

新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては、開催を中止する場合があります。



専用のゴーグルを着用することで、360°全方向の映像をお楽しみいただけます



ドローンで撮影した上空からの映像では、発電所周辺や太平洋を大パノラマでご覧いただけます



防潮堤を見上げることで、その大きさを体感できます



メールでのお申込み先

人事異動により新たな仲間が加わりました

このたびの人事異動に伴い、新たに21名が発電所の一員に加わりました。

一日も早い再稼働に向け、引き続き発電所のさらなる安全レベルの向上に向けた取り組みを着実に進めていくとともに、地域の皆さまから親しまれ、信頼される発電所を目指して、所員一丸となって取り組んでまいります。



※撮影のためマスクをはずしています。